

農林イノベーション



## 農作業、軽労化にロボ活躍

就業者の平均年齢が66歳を超え、高齢化や後継者難が深刻な日本の農業。高齢になれば農業で体にかかる負担もそれだけ増える。そのネック解消に期待を寄せられているのがアシストスースト。荷物も軽々持ち上げられる

果樹園などで使うアシストスーストは、和歌山大蔵農家では収穫時に果実を入れるバケットの重さが20kgに達することができるた

## 病虫発見・水やりにIT活用

め、高齢者や女性の作業が多い現場で期待が高まっている。キヤベツやスイカなどの収穫作業も同様。現在は外国人労働者

学やクボタが取り組んで

あるが賃金上昇や人手不

足が深刻になつてあり、アシストスーストを使えば

ロボットや軽労化機械へ

の二つは強い

せた栽培だな組み合わ

せ、収穫時は棚がロボッ

ト前まで移動してカム

ラで赤い実や熟度を判

別、カッターで柄の部分

を切る。

威力を發揮するのは、やはり大面积の農場においてだ。北海道大学がスマートフォン、GPSなどと連動した農場管理システムの開発を進めており、NTTドコモや富士通などのIT機器や

農作物を1本ずつ管理し

ている。大変な手間にな

り、取り組んでいる

ため、ITシステムが

風にならなかった

が、

だ。

だ。